

第3回池田市総合計画審議会 議事要旨

日 時：令和4年2月10日（木）10：00～11：30

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：（外部委員）

中川会長、金子副会長

浅田委員、荒木委員、池上委員、板谷委員、大島委員、門屋委員、北川委員、喜多村委員、ゲレンチェール委員、近藤委員、眞田委員、渋川委員、清水委員、庄田委員、高野委員、多田委員、田和委員、畑中委員、林委員、茂籠委員、若本委員（50音順）

（内部委員）

石田委員、岡田委員、田淵委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 藤本、川本、田籠

傍聴者：0名

1. 開 会

事務局より出席者の紹介、開催方法について確認があった。

2. 案 件

（1）第7次総合計画について

事務局より資料2についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

只今のご説明を踏まえて、委員各位からご意見あればお聞きしたい。

<外部委員>

2点、お教えいただきたい。

教育は池田市の特徴の一つにもなっており、特色が出るような形でビジョンを示してはどうかということが前回の部会でも出たし、私個人もこのようにしてはどうかと意見をメールでお送りした。今見る限りこれが池田市なのか、隣の豊中市・箕面市と名前が変わってもあまり変わらないのではないかと感じてしまう。池田市としての教育の特色について、どういった議論で今ここに着地しているのかをお教えいただきたい。

「男女共同参画」、ここも部会で議論になったが、そもそもこのジェンダーフリーの時代に「男女共同参画」という言葉でいいのかということもあるが、ここはおそらく法律の関係もご配慮されて「男女共同参画」という言葉になっていると思うが、ここには男性側の内容が入っておらずバランスが非常に悪いとご意見申し上げた。その前段の「子育て支援」のところには「父親」というワードを入れていただき、とても有り難いと思うが、そちらに入っていてなぜこちらの「男女共同参画」側には男性の話が入ってこないのか、逆にア

ンバランスだという気もする。女性の管理職や政策決定の場への積極登用とあるが、これと男性側の家庭への参画をより積極的にするということはセットの論だと思う。この辺りもどういった議論で今ここに落ち着いているのかをお教えいただきたい。

<会長>

それでは今の質問に対して、事務局からお答えいただきたい。

<事務局>

まず1点目の教育の特色等については、教育全般の話を大まかに記載しているところで、その教育に対して全てを行っていくということである。本日、教育長の田淵委員の出席が少し遅れているが、出席後に改めてご確認いただければと思う。

もう1点の「男女共同参画」のジェンダーについては内部で議論した中で、まず女性相談を中心に行い、今後についてはここにも記載しているとおり、「性別等を問わない」ということでジェンダーという形で持っていく。担当との打ち合わせの中でそういう形になっているところである。

<会長>

いかがか。

<外部委員>

性別を問わないというお話しはおっしゃるとおりだと思うが、その割には女性をぐっと押している感じがある。今いただいたことと書かれていることが若干ちぐはぐな気はする。ここも含めてこれで決定ではないと思うので、もう少し議論していった方がいいと感じた。

<会長>

これに関しては健康福祉・教育部会が所管していたと思うが、当該部会で何かご意見あればお願いしたい。よろしいか。

(意見等なし)

<会長>

それでは先に進める。他にご意見ご質問あるか。

<外部委員>

2点ある。一つが資料2-1、「時代の変化」や「社会課題の複雑化」という非常に重要な視点を挙げられているが、これに対してこの計画が陳腐化してしまったときにどう対応するかということも書かれた方がいいと思った。

今日に備えて第6次がどうだったかを見たら、時代が変わって合わなくなったときには見直すと書かれていた。それに対応するようなものがあるかと思ったが、今回の評価だと

事業単位の評価を進めるということだったので、これはかなり内的な評価だと思う。例えばコロナや、今ウクライナで起きているようなこと、ああいったもので大きく変わらざるを得ないときに、この計画をどう取り扱うのかを最後に少し盛り込まれたり、方法論があれば書かれたりした方がいいと思った。

あと2-2の表について、関連する分野別計画が施策ごとに列記されているが、できれば表の見出しに全部の計画を横並びに縦書きにして、どれが関係するかを黒ぽつを付けるような形にされて、いかに横串でできている計画が多くて、各部署・施策が連携しないと池田市の行政が回らないかを表現された方がいいと思った。今ツリー状に書かれていて、施策ごとが実は関連しているというのが見えにくいと思ったので、そのようにご提案申し上げます。

<会長>

これについては事務局、お答えいただけるか。

<事務局>

ご意見について、まずおっしゃるとおり、社会情勢の変化によって計画は見直していかないといけないというのは理解しており、それは重要な部分だが、おっしゃるとおり書かれていないので、記載、追記するようにしたいと思う。

もう1点、資料2-2の計画一覧について、こちらについてはどのようにすればよいかというのは皆様のご意見を伺いたいと思っていたので、おっしゃるとおり関連付けができていないので、その方向で検討したい。

<外部委員>

47ページ「市民意識調査」に「計画の浸透状況などを把握する」と今回追加されたかと思う。その前段で、共通の指針のような形で浸透を図っていくということを受けて、市民意識調査で浸透状況を把握すると書かれたかと思うが、この「浸透状況」とは単に知っているということなのか。計画自体でまちづくり人口を増やすなど、色々なことを前段で書かれているので、何か具体的に「浸透状況」の意味、意図について、事務局がどのようにお考えになっているのかを教えていただきたい。

<会長>

「浸透状況」というのは満足度、あるいは市民意識調査との関係でどう理解すればよいのかということである。事務局おねがいしたい。

<事務局>

それについては色々な委員から作るだけではなくて周知して、その後どう皆さんに分かってもらうかが大事だという意見があったので、まずそれを入れているところである。今後この計画に基づいて、事務処理、評価等を行っていくが、その中でKPIなどを設置しながら、どう反映できたかということをもっと市民に見せるということも含めている。そ

してなおかつその周知方法については色んな方法、SNSを使ったり、出前講座をしたり、ワークショップなどで発表したりするという大きな分野、全てのことを網羅した内容ということで書いている。

<外部委員>

ということは、やはりどれだけ知れ渡っているかということ把握することだと思う。せっかく市民意識調査をされるのであれば、ここに書く必要はないと思うが、どれだけ市民も取組を展開されているのか、まちづくり人口的なものがどうやって広がっていているのかも把握されて、指標などにされるといいのではと個人的には思った。

<会長>

市民意識調査の中身に関わるご提案かと思う。意識調査の中にはフェイスシートといって、答えている人のプロフィールは当然把握しないといけないので、その段階である程度の把握はできると思う。私は以前から意識と行動と結果という三つのステージにおいて分析できるような調査をしていただきたいと申しているので、市民意識調査という言葉も少し変えた方がいいかもしれない。意識ではなく認識度も入るので、どうすればよいか言葉を考えてみたいと思う。意識は意識に違いないが、「意識調査」というのは、実はこういうことをさすなどと脚注に入れてもいいのかもしれない。意識だけなら空中戦のような話に聞こえるかもしれない。特に認識度、浸透度が捕まえられるような調査を設計していただきたい。

<外部委員>

資料2-1にSDGsのゴールにどのようにフィットしているかというマトリクスがあるが、目標17はパートナーシップで、みんなで目標を達成しようというゴールの一つだが、17は基本的に全ての事業にフィットすると思う。例えば「高齢福祉」や「生涯学習」について、パートナーシップというゴールは当てはまらないと表示されているのは、どういう理由からか。逆にいうと、住み続けたいというゴール11は、全ての項目が関連しているということで、○を全て入れていると思う。そのことからしても、17番目のゴールに○が付いていないことがあるのは極めて意図を感じるが、私は少しキャッチアップできていなくて、ぜひ知りたいと思ったところである。

もう1点、8ページ「まちの将来像」に関するワーディングについて、「地域で市民が持続可能な未来を育てあう共育文化都市・いけだ」というとても素敵なワーディングだと思うが、冒頭の3文字「地域で」という言葉が何を意図しているのかを確認できればと思った。地域特性を生かしてなど、各小学校区や町内会でというイメージがあるかもしれないが、そうしたリージョナルな表現が本当に要るのか、若しくは色んな組織や団体があって、地域を超えてつながっていききたいという議論も随分あったようなので、この「地域で」という言葉が限定的に聞こえないかどうかという議論があったのかを知りたいと思った。

<会長>

これについても事務局からお答えいただきたい。

<事務局>

SDGsの17のゴールのマトリクスについて、このように表にすると、確かにおっしゃるように○が付いていないところが目立つと思った。17番目のゴールは私たちも一番大切にしているところだが、SDGsの推進をこれまで進めてきたので、そういった見え方に配慮して、重視していないから付いていないというわけではなく、かつシートを作った担当課がより当てはまるのではないかとというところに○を付けたという状況になっているので、市としての方向性として17は大切にしていきたいということが分かるような表にしたいと思う。

<会長>

もう1点、「地域で」が付いていることについてはいかがか。

<事務局>

まず「地域で」といっている理由について、第6次については地域分権制度を入れていて、その流れでここにも「地域」を入れている。その中でこの下位計画に地域ビジョンを作る予定で、小学校区10校区で新たな同じような計画、地域ごとの計画を作るということもあって「地域」と入れているが、ここの「めざすまちの将来像」のキャッチフレーズについては後でご説明申し上げるが、この全体の計画を踏まえて市民の皆様からご応募いただいて、この部分については変更したいと思っている。この中で「地域」とか「育て」を「育み」にするとよいなど、色々な意見を頂いているので、その辺も踏まえて市民の皆様からの意見も踏まえた中で、全体的な修正を行いたいと思っている。

<会長>

委員いかがか。

<外部委員>

理解した。

<会長>

他にご発言、ご希望はあるか。

(意見等なし)

<会長>

それでは次に移らせていただく。

(2) 第7次総合計画のキャッチフレーズの公募について

事務局より資料3についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

これについて、ご意見等ある方はご発言をお願いしたい。

<外部委員>

こちらのキャッチフレーズの公募については、先日アンケートをとった中学校等には直接案内する機会はあるのか。

というのも、案内が基本的に市の広報やSNSということだったが、中学生のアンケートを見ると、ほぼそこは達していない。ただアンケートを見る限りは、皆さんしっかり答えているのと、今後10年間の計画となると、中学生や子どもに非常に関わってくるので、あれば応募したいと思う子どももいるだろうし、自分たちのアンケートが、こういうところで皆さんに見られているというところでも、市の計画について自分たちの意見も少し参考になっているという実感もあるのではないかと思う。できればそこでこういうキャッチフレーズの公募があるということを書いていただく機会があると有り難いと思った。

<会長>

これについていかがか。

<事務局>

キャッチフレーズの設定にあたっての中学生などの参画について、この後、そのアンケートについてもご説明申し上げるが、中学生意識調査の設問の一つとして、「総合計画ではキャッチフレーズを定めるが、どのようなものがいいと思うか」というのをお尋ねしていた。その結果としては、自然の豊かさや暮らしやすさの辺りを強調してはどうかといった意見を数多く頂戴していて、こちらについては今後選定にあたって、いただいた案の調整などを踏まえ、参考にしたいと考えている。

またご意見があった、中学生の意見が反映されたことが伝わるとよりよいということも、おっしゃるとおりだと思うので、その辺りは工夫したいと思う。

<会長>

委員いかがか。

<外部委員>

理解した。よろしくをお願いしたい。

<会長>

それでは4人ほど手を挙げていらっしゃる。順をお願いしたい。

<外部委員>

募集用紙などを拝見して、初見の人が見たときに、このキャッチフレーズがどこで使われるのかが少し分かりにくいと少し感じていた。例えば、総合計画の中に使われるのか、それとも広報の段階で使われるのか、そういった色々な捉え方があると思うし、せっかく募集するのであれば、その活用の仕方について、事務局の方でもご検討いただいた上での募集であるとよりよいのではないかと少し感じた。

<会長>

これについては所見のようだが、事務局から何かコメントはあるか。

<事務局>

ご意見として伺っておく。

<会長>

次の委員、いかがか。

<外部委員>

こちらのキャッチフレーズの公募についてご質問とご提案だが、まず、この3月7日から28日の期間、こういった総合計画の過程に関わる人がなるべく多くなる方がいいと思っていて、例えば、簡単なオンラインでの説明や検討イベントのようなものは、何か計画されているのか。もし計画されていないのであれば、市民、公募委員として私も入っているが、そういうものは勝手に開催してもよいのか。

せっかくの機会なので、この中で池田市職員による投票などのプロセスを市民の方に見てもらった方がいいのではないかと感じた。

コメント応募用紙について、スマホで回答できるレベルのフォームをぜひ作っていただきたい。応募したいと思っても、色々な用紙とかで面倒だとなると、非常にもったいないと思う。簡単にスマホでQRコードを読めば、思ったことを書けるレベルのものをぜひご用意いただきたい。紙も用意しないといけないと思うが、色々なチャンネルから意見がもらえるような形はぜひご用意いただけるといいと思った。

<会長>

それでは、事務局からおねがいしたい。

<事務局>

なるべく多くの方の参画が得られる工夫ということだが、委員がおっしゃっていた説明会の実施などについて現状予定はしていなかったが、より広くお知らせする工夫として、キャッチフレーズの公募を宣伝するちらしの作成は予定していた。どのような形でそれが使われているかということと、計画の概要が載っているようなもので、できるだけ多くの方に見ていただけるような所に配架を行うといったことを考えている。

また、総合計画審議会の皆さんのような方が、個人的にそのような機会を設けてもよいのかというだが、これはもちろん差し支えない。キャッチフレーズの案について、その機会があることを周知していただくのは、大変有り難いことであり、複数の方で案を検討いただくことも可能である。ただ応募については、パブリックコメント手続きと同じということで、どなたかお一人の応募ということにはなってしまう。

続いて、この応募用紙に関するご意見について、今回、紙、「用紙」という名前が付いているが、こちらの提出方法については、紙での持参、郵送、ファックス、もちろんこれらも可能だが、メールでの提出も可能となっている。また応募用紙の右下にQRコードを載せていて、こちらには公募をしているホームページに飛べるようなリンクが張られており、フォームのようなもののご用意はできていないが、そこからスマホだけでメールで作成・提出はできるような形となっている。

<会長>

よろしいか。

<外部委員>

アンケートフォーム的なものを作るのは、それほど大変ではないと思うので、本当に些細なことで出そうと思っても諦める人が多数出ると思うので、QRコードを読むともうアンケートフォームが現れて、そこに打てばそのまま提出できるといったところまで配慮した形があれば、大分変わってくると思うので、ぜひご検討いただければと思う。

<会長>

次の委員いかがか。

<外部委員>

先ほど委員もおっしゃったように、フォームズで簡単に答えられるというのは、若い世代の人たちもフォームズから答えられるとなると、割と気軽に参加してもらえるかということで、これから10年間の計画をしていく、実践していくという中では、フォームズをぜひご検討いただければと感じた。

この総合計画の素案を今見せていただいて、各取組のシートの中に「市民の取組」が全部入ってくるが、市民に対するアピール、PRが少し弱いと、ずっと感じながら部会の中で話をしてきた。こういうキャッチフレーズの公募やパブリックコメントの募集のところが、この計画がスタートするときの最初の市民へのアプローチのチャンスかと思うので、先ほど委員がおっしゃったように、中学生にという視点もそうだが、市民全員がこの計画に興味を持ってもらえるようなアプローチのチャンスだと捉えてもらうととてもいいと思う。

市民一人一人が参画しやすいという話になると、フォームズでの応募が簡単にできるであるとか、また色んなグループ、色んな団体、色んな活動をしている多くの市民の方がいらっしゃると思うので、各分野別計画で関わりのある団体、グループ、NPOなど、色ん

なところから総合計画、今分野別計画をやっているけれども、それを総合的に、このように組み合わせて、これから10年間一緒にやっていくのだというようにしっかりとアピールするために、各分野別計画に関わる色々なグループ、団体、NPO、事業者、キャッチフレーズを募集していることやパブリックコメントが始まっていることがしっかり伝わるような仕掛け、また、市民がこれから10年間の計画を一緒に見守っていく、自分も参加していく実施主体として動いていく一つのきっかけ作りになるようなチャンスとして捉え、先ほどイベントは考えていないとおっしゃったが、周知の方法で色々なことを仕掛けてもらえればと思う。

<会長>

これについては、先ほど少し軽くは答えていただいているが、なお一層啓発に強力な施策を打ってほしいというご要望かと思う。後ほど事務局から、固めて返事してもらおうと思う。委員はいかがか。

<外部委員>

私のポイントは、先ほど委員がおっしゃった応募用紙の件で、やはりフォームズとか、きちっと若い人でも意見が出しやすいような環境を最低限整えると、この取組がより効果的になるのではないかと考えている。それ以外に加えるものはない。

<会長>

同様のご提起があったが、事務局いかがか。

<事務局>

この計画を周知する機会であることは、改めて強く認識した。そして、できるだけ間口を広げるために、応募者の作業が簡便なフォームの活用は有効であると思うので検討したいと思う。

また委員からご意見があった、この段階で市民だけに絞らず、分野別計画を共に進める関係団体にも幅広い周知、それらにもこの計画に参加していただく機会にもなるということで、こちらにも有効なアプローチを検討したいと思う。

<会長>

まだご意見、ご発言はあるか。

最後にもう一度、また皆様にご発言の機会を差し上げたいと思うが、次の案件に移る。

(3) その他

事務局より資料4についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

これについて何かご所見、ご見解をご披瀝いただける委員は、ご発言いただきたい。

<外部委員>

素晴らしいデータが出ているかと思う。これらの意見は、現在の施策を裏打ちするようなデータにもなっており、今後の展開などを考える上で非常に重要な要素が含まれているのではないかと思う。

やはり中学生や今後の池田市や社会を担っていく人たちに対してSDGsを考えるような機会を充実させていって、より市政やそういう取組に参加していただくような機会を増やしていくことが、とても重要だということがこの調査によっても分かったと思う。

惜しむらくは、もう少しこの情報があった上で、この総合計画の議論もできるとよかったのではないかと感じている。

<外部委員>

5年後に後期計画についての動きが始まると思うが、例えばこのメンバーに、技術的に可能であればだが、追跡調査ができないかと思う。おそらく5年後となると、このアンケートに答えた中学生も、色々な地域に引っ越しているかもしれないが、5年後の計画策定の時に、この対象者にアンケートをすることで、一つ興味深いデータが採れるのではないかと思った。

<会長>

委員がおっしゃっているのは、今回調査をした対象者に関して、追跡調査をしてはどうかというご提案かと思うが、もう一つ同じように5年後、同じ中学生を対象として同じ調査を試みてはどうかというのとあるが、前者の方が。

<外部委員>

その通りである。

できれば今回お答えいただいた人たちの5年後、要するに今中学生なので18歳から20歳ぐらいになると思うが、それぐらいの頃に追跡調査ができれば、どのような答えをするか興味深いと思う。

<事務局>

今回のアンケートは、個別にメールアドレスをお聞きして配信したというものではなくて、学校を通してなので、完全に追跡することは難しいと思うが、5年後に後期基本計画を策定する際には市民意識調査をする予定があるので、そのときに今13歳から15歳の方が20歳近くになって、年齢別のデータは採ることができるので、そこで少し比較することはできるかと思っている。

<外部委員>

先ほどから中学生のところへのコメントばかりで申し訳ないが、実は私の娘がちょうどこの中学生のアンケートを回答したところで、今朝このようなのがあると話していたところである。また、見ていると、本当にとってもボリュームのあるアンケートだったと聞いて、

自由記入欄が非常に多かったと、その中でこれだけまとめられたのは、とても大変だったのではないかという感想を持った。

先ほどとも重なるが、これだけのアンケートの資料と、今後池田市に住みたいかという質問において、これからどんどん社会に出ていく中学生が、これだけの割合で住みたいと思うのは、とても高いと個人的に感じた。中学生だけでなく他の子どもたちにもぜひ届くように、先ほどの総合計画のキャッチフレーズ等々、色んなものが届けばいいと感じた。

<外部委員>

このアンケートを拝見して、6ページの問13、SNSにあてはまるものというところについて、これは大人の方でも他の自治体でも、LINEなどの登録数はそれほど高くないとは聞いているが、この中学生の立場から見ても、市役所はあまり用事がなく縁遠いのかと思った。個人的に思うことだが、もっとこういうデジタルを活用して用事ができるなど、自治体と市民がつながる何かを作っていけばよいのではないかと思った。

<外部委員>

先ほど委員もおっしゃったように、うちの娘もこれに回答していて、うちは昨夜娘と少しこの話をして、結構自由意見を皆頑張っていて書いたということを書いていた。もちろん自由意見なのでまとめるのは大変だったかと思うが、子どもの周りでは自由意見が多くて大変だったけど、しっかり書いたと言っていたので、結果を返してあげると面白いと思う。

先ほどもおっしゃっていたように、中学生ももう少し総合計画などにコミットできるような何か、今回のパブリックコメントがそのいいチャンスかと少し思ったりもしたので、パブリックコメントの期間で、声かけができればと思った。

<会長>

今頂いたご意見を今後の運用、実施の段階で、生かせるものはどんどん生かしていただきたいと思う。

特に最後の方でおっしゃっていただいたご意見は、池田市のみみなでつくるまちの基本条例というのがあり、そこの第19条にパブリックコメントの手続きが書いてある。このパブリックコメントの精神を子どもたちに対しても平等に適応していくという、その姿勢の展開の在り方だと私は理解した。一部誤解されている方もいらっしゃるが、パブリックコメントは池田市の条例に書かれてあるように、市民の参画の手続きである。一部の人は、これは情報公開とか行政手続きだと勘違いしている。行政手続きというのは、国の法律に基づくパブリックコメントで、実は地方公共団体が行うパブリックコメントは行政手続き上のパブリックコメントではない。参画・協働の手法である。これは全く性格が違うということ、あまり自治体の方もご理解なさっていない。パブリックコメントに関する条例を制定した最初の自治体が、西宮市・神戸市・宝塚市と全部兵庫県自治体だが、その3自治体において、これが参画・協働の制度だということでスタートしている。多くの自治体が皆これを見習っている、地方公共団体のパブリックコメントと国のパブリックコ

メントは性格が違うということは、ご理解いただけるかと思う。そして池田市のみんなで作るまちの基本条例の精神のとおり実施すればよいと、皆様のご示唆くださったと私は思う。

それでは以上で三つの案件が終わったが、今日の審議事項の中で何か意見をまだ言いそびれているという方もいらっしゃるかと思うので、以後はご発言のなかった委員を優先したいと思うがいかがか。

(意見等なし)

<会長>

軽微なことについてはこの審議会でのご発言でなくても、事務局にこれについてはどうかということをお届けしていただければと思っている。文字の使い方や記載の並べ方については、どうぞご自由に忌憚なくご意見いただきたいと思う。

それではご意見ないようなので、進行を事務局にお返しする。

3. 閉 会

事務局により、次のように事務連絡が行われた。

<事務局>

次回の審議会は、パブリックコメントとキャッチフレーズの公募の後に開催する。日時については、後日事務局からメールでご連絡申し上げます。

案件としては、パブリックコメントとキャッチフレーズの公募を見て修正した、第7次総合計画（案）の確認をしていただく。

開催方法については状況を見ながら判断するが、今回と同様にオンラインとする場合もあるので、よろしく願いしたい。

また、案件（2）で説明があったように、今後の審議会は年度をまたいで4月中の開催とする予定となっており、皆様には引き続き総合計画審議会委員を委嘱する予定なので、よろしくお願い申し上げます。この委嘱期間の延長については、委員の皆様にはすでにメールで伺っているが、ご都合の悪い方はお知らせいただきたい。

それでは以上をもって、第3回池田市総合計画審議会を閉会する

以上